



当院で行っている臨床研究の紹介

今回は児童虐待に関する研究をご紹介します。

虐待・ネグレクトを含むマルトリートメント(不適切な養育)に関する研究で、児童期に起こった虐待の脳への影響は聞いたことがあるかと思います。どのような虐待であれ、脳の発達に影響があることがわかっており、当院でも予防、早期発見、治療、支援に力を入れています。

また、日本では支援者支援への取り組みが遅れており、支援者にもまた TIC(トラウマ・インフォームド・ケア)が必要であるという考えを基本としたアートサイコセラピーのワークショップを行うなど、下記のような研究を行っています。

- ・支援者へ行うアートサイコセラピーのワークショップ。 森香保里
- ・アートで TIC(トラウマ・インフォームド・ケア)を学ぶ。 森香保里, 中土井芳弘
- ・医療機関外におけるグリーフケアの提供。 木下あゆみ
- ・虐待の診断における全身骨 X 線撮影の実施状況と問題点。 子どもの虐待とネグレクト, 20 : 214-217, 2018. 横井広道, 木下あゆみ, 福田育美
- ・児童虐待の評価ー小児整形外科医の立場からー。 整形・災害外科。 67 : 143-151, 2024. 横井広道, 飛梅祥子

この冬に、高松で日本子ども虐待防止学会
第30回学術集會かがわ大会が開催されます。

この学会には、医療、保健、福祉、教育、司法、行政など様々な分野の専門家が集まり色んな課題に対して多面的に議論が行えるととても有意義な学会です。

虐待防止先進国である米国から、3名の著名人に登壇いただき「TF-CBT(トラウマフォーカスト認知行動療法)」、「子供が関係するDVに対する組織と実践者の対応の変革」、「乳幼児の家庭養育の推進と質の高い里親療育」などについての講演を企画しています。

また「こうのとりのゆりかご」から17年が経ち、今また新たな課題が浮き彫りになったことで関心の高い話題である赤ちゃんポストに関する講演も予定しています。

直接関りがなくてもどなたでも是非ご参加ください！

* 本大会に関連したホスピタルアートのワークショップも院内で開催予定ですので、是非ご参加ください。



学会 HP

あゆもうとものに
こどもたちとつながりつづけるために

日本子ども虐待防止学会
第30回学術集會かがわ大会

2024年
11月30日(土)
12月1日(日)

会場：サンポートホール高松・JRホテルクレメント高松・レクザムホール(予定)

問い合わせ
0577-62-1500 / 柳 fujino@mail.hosp.go.jp
〒460-8507 愛知県豊田市中区南栄町二丁目1番1号

主催：一般社団法人日本子ども虐待防止学会・日本子ども虐待防止学会 第30回学術集會かがわ大会 実行委員会
大会長：木下あゆみ 四国こどもとどんなの医療センター 小児科・児童医療科部長
実行委員長：横井広道 四国こどもとどんなの医療センター 小児整形外科部長



臨床研究部からのお知らせ

臨床研究部講座の今後の開催予定

今年度も臨床研究部講座を開催しています。残り4回で9月からの開催となっています。各回のスケジュールは下記の通りです。

医薬品等を国内で販売する前に行われる治験の話、学会発表や論文作成で英語翻訳ツールを使用する時の注意点などについての話、また、国立病院総合医学会の前には学会発表資料の作り方について、当院の医学雑誌の締め切り前にはその投稿方法や投稿原稿作成における注意点などについての講座も行います。

質問などにも対応しますので、この機会にぜひご参加ください。

講座名	日時（予定）	場所	講師
8. 治験とは	9月2日（月） 17:30～18:00	5階 カンファレンス室	宮田篤先生
9. 学会発表資料の作り方	9月9日（月） 17:30～18:00	5階 カンファレンス室	森香保里先生
10. 院内雑誌への投稿	9月30日（月） 17:30～18:00	5階 カンファレンス室	片島るみ先生
11. 英文翻訳のノウハウ	10月7日（月） 17:30～18:00	5階 カンファレンス室	森香保里先生

電子ジャーナルについて

当院で契約している電子ジャーナルで全文をみることができなかった場合、自身で別途お金を支払わなくても、臨床研究部へご相談いただければ、みることができる場合もありますので、よければご相談ください。



現在進行中の治験について

- 責任医師： 岡田 隆文 先生（小児科）
 対象疾患： RSウイルス下気道感染症
 対象年齢： 生後1日～生後60ヵ月（5歳まで）
 試験名・治験薬／
 投与方法： C5241009 試験・Sisunatovir／経口投与
 開発相/デザイン： 第Ib相／無作為化、二重盲検、治験依頼者非盲検、プラセボ対照、多施設共同、用量設定試験



RSウイルス感染症（respiratory syncytial virus infection）は、RSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。症状としては、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々ですが、特に乳児、幼児、免疫不全状態および高齢者では、重い肺炎などの下気道感染症の原因となる可能性があります。

現在、RSウイルス感染症の予防薬はあるものの、RSウイルス感染症に対する治療薬は無く、RSウイルス感染症の管理は限定的な治療（主に支持療法）の組み合わせに限られ、小児のRSウイルス疾病に対する有効な治療法のアンメット・メディカル・ニーズは現在も存在しています。

現在実施しているC5241009試験は、RSウイルス下気道感染症の小児集団に対する治験薬Sisunatovirの安全性、忍容性、薬物動態および用法・用量を確立することを目的とした臨床試験です。